

令和6年度 科学技術分野の 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞を受賞

当消防本部の職員3名が「令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞」を受賞しました。
この賞は、科学技術の振興を目的として、優れた創意工夫により、作業能率の向上等、職場における技術の改善向上に貢献した者に送られます。



〈受賞作品〉

①「サーモ機能付き防火装備の考案」（2名による連名作品）

・作品内容

本開発は、既存の防火手袋及び防火ヘルメットに、示温材と呼ばれる温度によって変色反応を起こすサーモラベルを貼り付けることにより、温度を「見える化」したものです。

当該サーモラベルは、元々、工場などの温度管理に使用されており、異常発熱を感知すると、瞬時に知らせるといった製品であり、この特長を応用し、防火手袋には屋内進入判断用のサーモラベル、防火ヘルメットには屋内進入後の活動危険察知用のサーモラベルを貼り付けました。

このことにより、各隊員が進入扉の温度測定に共通認識を持つことができ、安全性が向上します。さらに約1秒で屋内進入可否判断が可能になり、圧倒的に迅速性が増します。

また、屋内活動中は、常に環境測定をしているので、フラッシュオーバー前兆の温度を隊員が察知でき、進入隊員に危険を知らせます。現状の装備にサーモラベルを追加するだけですので、これまでの防火装備と活動を大きく変える必要がなく、ランニングコストやメンテナンスも不要です。

加えて低コストであるため、現実的に全隊員への装備が可能です。



②「駆血機能を有する静脈路確保収納バッグの考案」

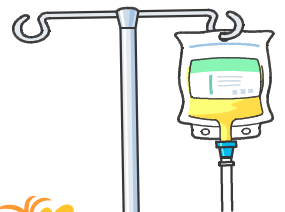
・作品内容

静脈路確保は救急現場において救急救命士が実施することができる救急救命処置の一つです。静脈路確保に伴う現状の課題として、資器材の視認性及び資器材の展開場所が挙げられます。

救急件数の増加と多様化に伴い、静脈路確保の対象件数も増加することが見込まれることから、今回、安全かつ効率的に静脈路確保を実施することを目的とし、静脈路確保収納バッグの改良に至りました。

使用方法は、バックルを外してバッグを展開後、傷病者の上肢の下に敷き、バッグに取り付けている一方の駆血帯を上腕に装着し、静脈路確保を実施します。

展開したバッグを敷いて使用するため、事故車両内や出血などにより不衛生な現場などでも、清潔操作に努めることができます。



★東近江消防は、今後も更なる消防職員の資質の向上と消防の発展に貢献していきたいと考えています。★